

2022年度始業式(前期) 奨励

聖書 ルカによる福音書10章25-28節

すると、ある律法の専門家が立ち上がり、イエスを試そうとして言った。「先生、何をしたら、永遠の命を受け継ぐことができるでしょうか。」イエスが、「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と言われると、彼は答えた。「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」イエスは言われた。「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」

問われて

今年、静岡英和女学院は135周年を迎えます。もう季節は新緑の季節を迎えようとしています。いのちの息吹を感じる季節となりました。紫外線も強くなりますが、新緑と木漏れ日に包まれると励まされます。

昨日、入学式がありました。黄色の中学1年生55名、緑の高校1年生81名が入学されました。また中学校2年、3年生には転入生も迎えました。どうぞ宜しくお願いします。そして進級された英和生の皆さん進級おめでとうございます。この一年も神様に与えられた道を一日一日、大切に共に歩いていきましょう。後ほど新しくお迎えした先生方をご紹介します。

さて新入生と共に英和生の誰もが新しい教室、クラスメート、担任の先生との出会いです。そしてこの一年学ぶ教科書も受け取られていると思います。教科書はとても限られた頁に一年分の学ぶ内容が入っていますから、実はもうすでに学

んだところは省略され、新しい内容は先生が教え補うことを前提にして書かれています。ですから教科書を読むためにはその単元の内容に入る前に、すでに学んだところを理解しているか、文字と文字の間に書かれていないことを想像する力も試されます。それを少し難しい言葉で言うと「読解力」と言います。読めるだけでなく正確に理解する力です。

つまり教えられることを鵜呑みにするのではなく、自分からどうしてそうなるのか事前に調べたり、前に学んだことを確認したり、ネット配信の授業、幅広い読書からもヒントを得て、わからなくても自分から学んでいこうという姿勢が大切になります。そうして授業での先生のお話を聴き、友だちと一緒に学んでいくうちに理解は深まり、学び合うことが楽しくなります。そして興味や関心も広がり、他者のことに共感し、社会の課題にも向き合う力がわいてきます。

先ほど読んで頂いた聖書に「律法の専門家」という人が出てきました。律法とは人生の教科書のようなものです。そして専門家ですから、この人は先生になります。先生がイエス様にどうしたら幸せになれるかと聞いています。

ところが「律法には何と書いてあるか。あなたはそれをどう読んでいるか」と逆にイエス様から問い返されます。「私が言わなくても律法という教科書に書いてあるね、あなた自身がそれをどう読んでいるのか」と言っているのです。

そこで律法の専門家は「『心を尽くし、精神を尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、また、隣人を自分のように愛しなさい』とあります。」と答えます。するとイエス様は「正しい答えだ。それを実行しなさい。そうすれば命が得られる。」と言いました。

あなたは書いてあることは知っている。でも教えられたことを知っているだけでは読んだことにはならない、それをどう読んでいるか、つまり律法、聖書に書かれていること、神様の言葉を自分で確かめてごらん、先生やお友だちと一緒に

確かめてごらんと問いかけられているのです。

私たちはどうしてこうなるのかと人生に問いますが、実は逆に私たちは人生で起きていることから問われているのではないのでしょうか。

私たちは、聖書が答えてくれる、神様が答えてくれると待っていますが、実は逆に私たちは聖書から、神様からどうすると問われているのではないのでしょうか。

大切なのはあなた自身が、友だちと共に学び、確かめ、歩むことです。

百年前に世界に広がったスペイン風邪は約三年で終息しました。百年後、これだけ文明や医学が進歩した21世紀になっているのに、今回の新型コロナウイルス感染症は四年目を迎えました。それでも終息が見えないのはなぜでしょうか。

そして同様に約百年前に起きた第一次世界大戦から第二次世界大戦と続いた戦争の世紀と言われる20世紀から冷戦時代を経て平和を求める21世紀になっているのに、なぜ前世紀のような大国による侵略が今起きているのでしょうか。

世界には、地球には、そして未来には謎も、課題もいっぱいあります。

英和生が自ら、そして共に学び、未来を描き、未来をめざし、未来につなげる英和の日々を送ってほしいと願っています。身近な、静岡の、そして日本の、世界の、未来の課題に興味関心を抱いてほしいと願っています。そしてその課題の解決に向かって共に確かめ、自分のミッション(使命)を抱いて羽ばたいてほしいと願っています。どうか自分自身が、私たちが問われていることを楽しんで学ぶ学校生活を送りましょう。

2022年4月8日

校長 大橋 邦一